

2019年度 後期

東北大学会計大学院アンケート実施報告書

Toboku University Accounting School

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

1. はじめに

東北大学会計大学院は2005年4月に国立大学法人では初めての会計専門職大学院として開設された。本会計大学院の目的は、グローバルな視野と高度な分析能力を持つ職業会計人を養成し、将来にわたりこのような人材を社会に提供し続けていくことである。本会計大学院での教育の理念は、会計分野の知識だけでなく、経済や経営、IT、法律といったこれからの社会で会計の専門家として活躍するために求められる知識と素養を修得することである。この理念を達成するため、私たちは、社会が職業会計人に求める能力を把握し、これを学生への教育へと反映し、同時に、現在行っている教育が学生の能力やニーズに見合っているかを常に確認しながら、より効果的な教育方法を模索していく必要があると考えている。このような理念に鑑み、私たちは、会計大学院における最善の教育方法・システムを求めていくためのひとつの手段として、毎Semester終了後にアンケートを実施している。過去のアンケートは、「アンケート実施報告書」として本会計大学院のウェブサイト¹で公開している。

私たちがこの報告書を公表する意図は、東北大学会計大学院への入学希望者や、学生の主要な就職先となる監査法人・会計事務所・企業・官庁の方々に、本会計大学院でどのような教育が行われているかを理解して頂きたいという点にある。この調査報告書の公開によって、本会計大学院の修了生が高い意欲をもって学習に取り組んでいることを示すことができると考えている。

また、私たちは、このアンケート調査報告書を在学生が教員に対して発信したメッセージと捉えている。今後とも、私たちはアンケートを通じて改善すべき点を見出し、質の高い教育サービスを提供できるよう努力していきたいと考えている。アンケート結果についてご意見をいただければ幸いである。

本会計大学院は2018年度に会計大学院評価機構による認証評価を受け、すべての基準に適合しているという評価を受けた。2020年度からはビジネスアカウンティングコースを設置し、カリキュラムの体系も見直した。加えて、アンケート実施方法を見直し、全学生を対象に実施してきた「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」に代えて今年度より「会計大学院の修了予定者に対するアンケート」を実施した。新しいカリキュラム体系の確認のために今回のアンケートの結果を活かしたいと考えている。

2020年6月

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

¹ <http://www.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/classeva.html>

2. 実施方法

本報告書の対象となるアンケートの種類と配布期間・対象者は以下に示す通りである。

①「会計大学院の修了予定者に対するアンケート」（巻末資料 1）

2019年10月2日（水）～10月11日（金）に2019年3月修了予定者に対して配布。

②「会計大学院の授業に関するアンケート」（巻末資料 2）

2019年1月6日（月）～1月27日（月）に講義受講者に対して配布。

両アンケートともに無記名であり、「会計大学院の修了予定者に対するアンケート」は1学生につき1回限りの回答とした。「会計大学院の授業に関するアンケート」は履修者が5名以上である全ての講義を対象とし、学生は受講している講義ごとに回答を行っている。なお、講義担当教員の希望があったものについては、履修者が5名未満の場合でも実施している。

本報告書では、まず「会計大学院の修了予定者に対するアンケート」の集計結果から、本会計大学院の教育システム全般に関する分析結果を示して問題点を明らかにし、今後の対応について述べる。続いて、「会計大学院の授業に関するアンケート」の結果を集計し、今semesterに開講された科目について、その教育内容・教育方法全般に関する分析を行い、その問題点を明らかにし、今後の対応を検討する。なお、本報告書ではアンケートにより得られたデータを可能な限り定量的に分析したいと考えている。

「会計大学院の授業に関するアンケート」における科目毎のアンケートの集計結果（アンケート質問項目18の自由質問を含む）と自由記入欄の記載内容は、担当教員に原文を直接報告されている。ワークショップ委員会では、各教員がこれを通じて次年度以降の講義内容の充実に資することと期待している。

3. 「会計大学院の修了予定者に関するアンケート」の集計結果について

3.1. アンケートの実施状況

本アンケート用紙は2019年度後期の授業開始時に学生・担任教員の間で実施された個人面談の中で配布・回収され、当日アンケートを提出しなかった学生については会計大学院事務分室で配布・回収を行った。回収数は12である。会計大学院の修了者13名のほぼ全てが回答しているため、アンケート結果には会計大学院修了生の総意が十分に反映されていると考える。

3.2. 設問ごとの集計結果と推移

以下では、それぞれの設問についての集計結果と、過去に「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」においてほぼ同様の内容の質問を行っていた設問4、設問5については、直近8年度分の推移を示している。なお、全項目の集計結果については巻末資料を参照されたい。

設問1および設問2（表は未掲載）は受講者属性を問うものであり、12名の回答のうち、9名が公認会計士コース、3名が会計リサーチコースであった。本アンケート回答者は全員が会計大学院学生であった。会計リサーチコースの回答者が少ないものの、本アンケート結果は本会計大学院学生のカリキュラムに対する声のある程度反映しているものと考えられる。

設問3: これまでに受講してきた授業をふまえ、授業内容は会計大学院として適切な水準にあると思いますか？

選択項目	2019
適切である	75.00%
ほぼ適切である	16.67%
どちらともいえない	8.33%
やや不適切である	0.00%
不適切である	0.00%
計	100%
総数	12

設問4: セメスターごとの開講授業科目数のバランスは適切だと思いますか？

選択項目	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
適切である	31.03%	55.00%	47.83%	44.44%	37.04%	27.78%	47.37%	91.67%
ほぼ適切である	31.03%	30.00%	21.74%	38.89%	37.04%	33.33%	26.32%	8.33%
どちらともいえない	20.69%	10.00%	17.39%	5.56%	14.81%	11.11%	10.53%	0.00%
やや不適切である	13.79%	5.00%	8.70%	0.00%	7.41%	27.78%	15.79%	0.00%
不適切である	3.45%	0.00%	4.35%	11.11%	3.70%	0.00%	0.00%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%
総数	29	20	23	18	27	18	19	12

設問5: 成績評価に用いているGPAは、学生個々の能力を適切に評価できる（た）と思いますか？

選択項目	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
適切である	24.14%	18.18%	52.17%	33.33%	11.11%	27.78%	50.00%	83.33%
ほぼ適切である	17.24%	45.45%	4.35%	27.78%	44.44%	27.78%	38.89%	16.67%
どちらともいえない	41.38%	27.27%	26.09%	22.22%	18.52%	27.78%	0.00%	0.00%
やや不適切である	10.34%	9.09%	13.04%	11.11%	14.81%	16.67%	11.11%	0.00%
不適切である	6.90%	0.00%	4.35%	5.56%	11.11%	0.00%	0.00%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%
総数	29	22	23	18	27	18	18	12

設問 6：時間割上の配置について適切だと思いますか？

選択項目	2019
適切である	75.00%
ほぼ適切である	25.00%
どちらともいえない	0.00%
やや不適切である	0.00%
不適切である	0.00%
計	100%
総数	12

設問 7：講義室について満足度をお聞かせください

選択項目	2019
満足である	91.67%
ほぼ満足である	8.33%
どちらともいえない	0.00%
やや不満足である	0.00%
不満足である	0.00%
計	100%
総数	12

設問 8：院生研究室について満足度をお聞かせください

選択項目	2019
満足である	58.33%
ほぼ満足である	33.33%
どちらともいえない	0.00%
やや不満足である	8.33%
不満足である	0.00%
計	100%
総数	12

設問 9：会計大学院のトータルの満足度について

選択項目	2019
満足である	83.33%
ほぼ満足である	16.67%
どちらともいえない	0.00%
やや不満足である	0.00%
不満足である	0.00%
計	100%
総数	12

3.3. 自己評価と今後の課題

ここでは、設問3から9の集計結果をもとに、問題点を抽出するとともに対応を検討する。

設問3（授業内容の水準）については、「適切である」と回答した学生の割合は75.00%、「ほぼ適切である」と回答した学生と合わせると91.67%となり、現行の科目配置のバランスは学生たちに高く評価されていると考えられる。

設問4（Semester間の開設授業科目のバランス）については、「適切である」と回答した学生の割合は91.67%、「ほぼ適切である」と回答した学生と合わせると100%となり、高い満足度を得られていることが読み取れる。

設問5（GPAによる評価）では、「適切である」と回答した学生の割合は83.33%、「ほぼ適切である」と回答した学生と合わせると100%となり、適切に成績評価が行われていると多くの学生が評価していることがわかる。GPAは様々な用途に利用されることがあるが、本会計大学院では、自己管理のための利用を特に強調している。さらにGPAによる評価をもとに個人面談等を行うため、こうした趣旨が学生にも浸透してきたと考えている。

設問6（時間割上の配置）では、「適切である」と回答した学生の割合は75.00%、「ほぼ適切である」と回答した学生と合わせると100%となり、学生にとって受講しやすい時間割が組まれていることが読み取れる。

設問7（講義室の満足度）では、「満足である」と回答した学生の割合は91.67%、「ほぼ満足である」と回答した学生と合わせると100%となり、講義室への満足度は非常に高いものと考えられる。

設問8（院生研究室の満足度）については、「満足である」と回答した学生の割合は58.33%、「ほぼ満足である」と回答した学生と合わせると91.67%となり、院生研究室への満足度も高いと考えられる。ただし、他の質問の回答結果に比べるとこの設問で「満足である」と回答した人数がやや低いため、院生の学習環境に関するさらなる調査が望まれる。ただし、このアンケート実施後に研究室担当教員より調査が行われ、院生研究室の老朽化に伴う設備の問題が原因であることが判明している。現在、工事によってこの問題を解決していく予定であるため、工事完了後は満足度がさらに高まるものと考えられる。

設問9（会計大学院の総合的な満足度）では、「満足である」と回答した学生の割合は83.33%、「ほぼ満足である」と回答した学生と合わせると100%となり、当会計大学院への学生の満足度は極めて高いことが判明している。

本アンケートでは修了者に回答者を限定したことを考えると、会計大学院全体の傾向とは異なるかもしれない。しかし、修了予定者は会計大学院の教育制度への理解度が高く、設備を使用した期間も長いため、質の高いアンケート結果であると考えられる。これらの結果を踏まえて、充実したカリキュラムを保持・設計していきたいと考える。

4. 「会計大学院の授業に関するアンケート」に関する分析

4.1. アンケートの実施状況

「会計大学院の授業に関するアンケート」は、前述の通り、履修者が5名以上の授業及び担当教員からの希望があった22科目について実施された。アンケート実施科目と履修者・アンケート回収数をまとめると次のようになる。

授業科目名	履修者数	回収数
原価計算 2	37	29
簿記 2	28	24
情報システム設計	16	15
監査計画の編成法 1	6	3
ビジネス・プレゼンテーション 1	11	11
ビジネス・プレゼンテーション 2	4	4
監査実務 1	23	22
監査実務 2	15	14
管理会計 1	6	5
財務諸表分析	8	7
英文外書講読 b	5	5
金融行政 2	7	6
企業法 2	16	14
事例研究（法人税法）	5	5
財務会計 2	36	23
公会計 1	34	24
事例研究（会計職業倫理）	24	18
IFRS 1	16	12
監査 2	36	21
経営管理	13	10
経営戦略	11	11
消費税法	6	6
合計	363	289

「履修者数」は履修登録を行った学生数であり、「回収数」は履修登録を行わず聴講している学生も含んでいる。

表 1：アンケート実施科目と回収数

今回のアンケートでは、述べ履修者数 363 名に対して 289 名から回答を得た。アンケートの回答率は 79.61% と高水準であり、結果の信頼性は高いと言える。なお、質問項目 17 は科目担当教員が独自に設定できる質問であり、アンケートの集計には含めていない。

4.2. アンケートに関する基本統計量

各設問の選択肢に付与された数字は、好ましい回答ほどの値が大きくなるよう設定されているため（設問1を除く）、この数値化によって回答の平均値、中央値、最頻値の算出を行った。あわせて、参考のため標準偏差も計算した。その結果は以下の通りである。なお、アンケートの内容については資料2を参照されたい。

項目\設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
5	67	240	13	9	23	144	213	238	238	226	227	213	228	170	208	68
4	173	27	9	15	12	103	57	36	32	34	36	47	46	40	47	0
3	26	10	30	22	27	30	15	12	15	23	17	22	7	45	25	146
2	15	4	42	62	49	8	3	1	2	3	6	6	5	14	3	0
1	3	3	96	93	81	1	1	2	2	3	3	1	3	18	6	67
0	5	-	96	85	91	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	289	284	286	286	283	286	289	289	289	289	289	289	289	287	289	281
平均値	3.94	4.75	1.30	1.36	1.49	4.33	4.65	4.75	4.74	4.65	4.65	4.61	4.70	4.15	4.55	3.01
中央値	4	5	1	1	1	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3
最頻値	4	5	0	1	0	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3
標準偏差	0.95	0.88	1.42	1.29	1.52	0.80	0.66	0.61	0.65	0.76	0.77	0.75	0.70	1.22	0.86	1.39

表2：アンケートの基本統計量

これまでのアンケート結果と同様、設問3（予習）、設問4（復習）、設問5（宿題）、設問16（資格）以外は、平均値が概ね4以上であり、中央値や最頻値も最高評価の5である。この傾向は過去数年と大きな違いはなく、会計大学院の講義に対する評価はこれまでと変わらず良好である。ただし、授業の予習、復習、宿題にかかる時間はあまり多くない状態が何年も続いている。設問3（予習）、設問4（復習）、設問5（宿題）に回答した学生のうちの半数以上が2時間以下しか学習時間を確保していない。これは過年度の傾向と同様であり、継続的にこれに対処する方法を模索する必要がある。全体として、学生の各講義に対する評価は高い水準にあるといえるものの、予習・復習・宿題にかかる時間を一定数確保するように授業を設計する必要があるといえる。

4.3. 各設問間の相関

質問項目間の相関関係をみるために、表3を作成した。なお、0.50以上の相関係数については太字にしている。設問16の資格については、より高い資格であるほど高いスコアとなるようになっている。

設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
1 属性	1															
2 出席	-0.053	1														
3 予習	-0.056	0.018	1													
4 復習	0.040	0.007	0.710	1												
5 宿題	-0.095	0.010	0.550	0.587	1											
6 理解	0.040	0.082	0.037	-0.013	0.024	1										
7 難易度	0.126	0.128	0.135	0.064	0.005	0.563	1									
8 教員準備	0.111	0.081	0.096	0.081	-0.018	0.303	0.546	1								
9 プレゼン	0.047	0.249	0.059	0.017	-0.047	0.316	0.499	0.858	1							
10 教材	0.153	0.141	0.112	0.062	-0.036	0.295	0.437	0.713	0.727	1						
11 評価方法	0.103	0.105	0.074	-0.020	-0.038	0.367	0.583	0.637	0.593	0.582	1					
12 シラバス	0.113	0.097	0.097	0.030	-0.060	0.411	0.542	0.724	0.680	0.628	0.776	1				
13 教員評価	0.129	0.099	0.113	0.103	-0.019	0.322	0.488	0.834	0.794	0.717	0.611	0.731	1			
14 対試験	0.126	0.157	0.237	0.295	0.066	0.232	0.355	0.372	0.392	0.384	0.318	0.432	0.408	1		
15 キャリア	0.158	0.184	0.075	0.094	0.049	0.294	0.497	0.637	0.671	0.612	0.562	0.614	0.706	0.495	1	
16 資格	0.153	-0.053	-0.077	-0.040	-0.010	-0.049	-0.013	0.011	0.037	0.066	0.071	0.082	0.018	0.102	0.138	1

表3：質問項目間の相関関係

過年度と同様に、設問3（予習）、設問4（復習）と設問5（宿題）の間で比較的高い正の相関が見られる。これらの設問は学生の会計大学院の授業に関連する勉強時間についてのもので、予習等をよく行う学生は復習等もよく行うことを示している。また、そうした学生は宿題等に取り組む時間が多いことからある程度宿題等を課すような仕組みが有効であると考えられる。

ここでは、授業の難易度（設問7）と教員の評価（設問13）を中心に検討を行う。授業の難易度（設問7）は、教員の準備（設問8）、評価方法（設問11）、シラバス（設問12）と高い相関関係を有する。これらのことから、適切な授業設計が授業の難易度の適切な管理につながるといえる。なお、従来、プレゼン（設問9）、教材（設問10）は授業の難易度（設問7）と0.5以上の相関関係を有していたが多かったが、やや相関が低下している。

教員の評価（設問13）については、昨年度と同様に、教員の準備（設問8）、教員のプレゼン（設問9）、教材（設問10）と高い相関関係を有している。ただし、今年度は、評価方法（設問11）、シラバス（設問12）、キャリア（設問15）との強い相関が確認される一方で、授業の難易度（設問7）との相関はやや低下した。なお、昨年度に比べて大きく変化したのが、シラバス（設問12）、キャリア（設問15）と教員の評価（設問13）との相関である。適切な評価方法及びシラバスを作成することと、将来の学生のキャリアにつながる講義を行うことが、学生から強く求められてきているように思われる。

これらの傾向はおおむね、過去と同様である。上記の表については過去の報告書でも報告されている。過去の報告書については、会計大学院WEBサイトを参照されたい（<http://www2.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/classeva.html>）。

4.4. 設問ごとの集計結果と所見

以下では、それぞれの設問についての集計結果と過去4年間の推移を示し、各々所見を示す。なお、アンケート全項目の集計結果については巻末資料4を参照されたい。

設問1：該当するものを選んでください（受講者属性）

選択項目	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期	2019 前期	2019 後期
公認会計士コース（2年）	31.28%	32.14%	31.28%	26.06%	31.28%	34.55%	20.67%	23.18%
公認会計士コース（1年）	55.38%	48.81%	55.31%	60.56%	55.31%	50.30%	69.33%	59.86%
会計リサーチコース	11.28%	11.90%	6.15%	4.93%	6.15%	12.12%	7.00%	9.00%
経済経営学専攻	0.51%	5.95%	0.56%	0.70%	0.56%	1.21%	0.33%	5.19%
経済学部	1.54%	0.00%	6.70%	3.52%	6.70%	1.21%	2.67%	1.04%
その他	0.00%	1.19%	0.00%	4.23%	0.00%	0.61%	0.00%	1.73%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	195	168	179	142	179	165	300	289

受講者属性に大きな傾向の変化はなかった。

設問2：この講義にどのくらい出席しましたか。

選択項目	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期	2019 前期	2019 後期
90%以上	88.48%	70.41%	84.36%	65.49%	84.36%	83.54%	91.13%	84.51%
89-70%	4.19%	18.34%	8.38%	26.06%	8.38%	9.76%	3.75%	9.51%
69-50%	1.57%	6.51%	2.23%	2.82%	2.23%	1.83%	1.02%	3.52%
49-20%	2.09%	1.78%	1.68%	3.52%	1.68%	3.05%	0.68%	1.41%
20%未満	3.66%	2.96%	3.35%	2.11%	3.35%	1.83%	3.41%	1.06%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	191	169	179	142	179	164	293	284

2016年度後期、2017年度後期に90%以上出席した学生の割合が7割前後となっていることが問題視されたが、2018年度以降は8割以上に回復している。出席率が低下しないように各教員が工夫した成果であると考えられる。

以下、設問3から設問5は、学生の時間外での学習に係る設問であることからまとめて検討する。

設問3：この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期	2019 前期	2019 後期
5時間以上	2.05%	7.10%	4.49%	2.82%	4.49%	1.82%	5.25%	4.55%
4-5時間	2.56%	1.18%	2.25%	1.41%	2.25%	1.82%	3.93%	3.15%
3-4時間	5.64%	7.10%	3.93%	2.11%	3.93%	12.12%	8.20%	10.49%
2-3時間	11.28%	16.57%	11.80%	12.68%	11.80%	10.91%	13.11%	14.69%
1-2時間	34.87%	28.40%	34.83%	34.51%	34.83%	32.73%	31.15%	33.57%
1時間未満	43.59%	39.64%	42.70%	46.48%	42.70%	40.61%	38.36%	33.57%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	195	169	178	142	178	165	305	286

設問4：この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期	2019 前期	2019 後期
5時間以上	7.73%	8.33%	7.34%	4.23%	7.34%	2.41%	3.61%	3.15%
4-5時間	2.06%	1.19%	1.69%	1.41%	1.69%	1.20%	4.59%	5.24%
3-4時間	6.19%	11.31%	3.95%	4.93%	3.95%	10.84%	10.82%	7.69%
2-3時間	11.34%	12.50%	14.12%	15.49%	14.12%	12.05%	13.11%	21.68%
1-2時間	38.66%	36.90%	46.33%	41.55%	46.33%	39.16%	40.66%	32.52%
1時間未満	34.02%	29.76%	26.55%	32.39%	26.55%	34.34%	27.21%	29.72%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	194	168	177	142	177	166	305	286

設問5：この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期	2019 前期	2019 後期
5時間以上	8.25%	18.34%	9.71%	3.68%	9.71%	3.66%	5.26%	8.13%
4-5時間	5.67%	7.10%	4.57%	5.15%	4.57%	1.83%	7.24%	4.24%
3-4時間	5.67%	8.88%	10.29%	8.82%	10.29%	9.76%	12.50%	9.54%
2-3時間	19.07%	11.83%	14.86%	13.97%	14.86%	14.02%	20.72%	17.31%
1-2時間	30.41%	30.18%	32.57%	34.56%	32.57%	30.49%	30.26%	28.62%
1時間未満	30.93%	23.67%	28.00%	33.82%	28.00%	40.24%	24.01%	32.16%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	194	169	175	136	175	164	304	283

設問3から設問5に回答した学生のうちの半数以上が2時間以下しか学習時間を確保しておらず、過年度の傾向と同様となった。学習時間の確保は担当教員にとって継続的な課題であるが、予習、復習、宿題のいずれに重点を置かは科目担当員の裁量によるところである。科目特性に応じて、何に力点を置くのかを明示し、学習時間を学生に確保させるように継続して工夫する必要があるといえよう。

設問6：この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか。

選択項目	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期	2019 前期	2019 後期
理解できた	24.10%	33.73%	32.40%	38.30%	32.40%	37.04%	33.55%	50.35%
ほぼ理解できた	49.74%	46.15%	46.93%	50.35%	46.93%	47.53%	48.21%	36.01%
どちらともいえない	21.54%	15.98%	15.64%	9.93%	15.64%	13.58%	14.66%	10.49%
あまり理解できなかった	3.59%	1.78%	5.03%	0.71%	5.03%	1.85%	2.93%	2.80%
理解できなかった	1.03%	2.37%	0.00%	0.71%	0.00%	0.00%	0.65%	0.35%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	195	169	179	141	179	162	307	286

講義内容を「理解できた」または「ほぼ理解できた」と回答した学生の割合はこれまでと同様高い水準を維持している。この水準を今後も維持する必要がある。

設問7：この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか。

選択項目	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期	2019 前期	2019 後期
適切	63.59%	65.68%	63.69%	63.12%	63.69%	75.93%	66.88%	73.70%
ほぼ適切	25.13%	26.63%	28.49%	31.21%	28.49%	18.52%	25.00%	19.72%
どちらともいえない	10.77%	5.33%	5.03%	4.26%	5.03%	4.94%	6.17%	5.19%
やや不適切	0.00%	1.18%	2.23%	0.71%	2.23%	0.62%	1.62%	1.04%
不適切	0.51%	1.18%	0.56%	0.71%	0.56%	0.00%	0.32%	0.35%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	195	169	179	141	179	162	308	289

難易度が「適切」または「ほぼ適切」と回答した学生の割合は従来と同じように9割を超えており、難易度の設定は適切であると考えられる。今後もこの水準を維持したいと考えている。

設問8：教員のこの講義に対する準備は十分でしたか。

選択項目	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期	2019 前期	2019 後期
十分	73.58%	76.19%	80.34%	72.86%	80.34%	80.72%	79.80%	82.35%
ほぼ十分	18.65%	18.45%	15.17%	24.29%	15.17%	14.46%	13.68%	12.46%
どちらともいえない	5.70%	2.98%	2.81%	1.43%	2.81%	3.61%	4.56%	4.15%
やや不十分	1.04%	0.60%	1.69%	0.71%	1.69%	0.60%	1.63%	0.35%
不十分	1.04%	1.79%	0.00%	0.71%	0.00%	0.60%	0.33%	0.69%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	193	168	178	140	178	166	307	289

教員の準備が「十分」または「ほぼ十分」と回答した学生の割合は9割を超えており、従来と同じように高い水準となった。今後もこの水準を維持する必要がある。

設問9：教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良かったですか。

選択項目	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期	2019 前期	2019 後期
良かった	69.74%	73.37%	71.51%	70.71%	71.51%	79.52%	77.20%	82.35%
まあまあ良かった	23.08%	21.89%	21.23%	23.57%	21.23%	16.27%	13.36%	11.07%
どちらともいえない	4.10%	1.78%	4.47%	2.14%	4.47%	3.61%	6.84%	5.19%
やや悪かった	2.05%	1.78%	1.68%	2.86%	1.68%	0.60%	2.28%	0.69%
悪かった	1.03%	1.18%	1.12%	0.71%	1.12%	0.00%	0.33%	0.69%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	195	169	179	140	179	166	307	289

教員のプレゼンテーションが「良かった」または「まあまあ良かった」と回答した学生は9割を超えており、従来と同じように高い水準にある。今後もこの水準を維持する必要がある。

設問10：テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。

選択項目	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期	2019 前期	2019 後期
適切	69.23%	69.82%	42.80%	70.00%	65.54%	75.90%	69.81%	78.20%
ほぼ適切	16.92%	21.30%	16.24%	26.43%	24.86%	16.27%	19.16%	11.76%
どちらともいえない	11.79%	7.10%	4.06%	1.43%	6.21%	6.63%	7.14%	7.96%
やや不適切	0.51%	0.00%	2.21%	2.14%	3.39%	1.20%	3.57%	1.04%
不適切	1.54%	1.78%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.32%	1.04%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	195	169	171	140	177	166	308	289

テキスト等が「適切」または「ほぼ適切」と回答した学生の割合は9割程度であり、従来と同じように高い水準にある。今後もこの水準を維持する必要がある。

設問11：この講義の成績評価の方法は適切だと思いますか。

選択項目	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期	2019 前期	2019 後期
適切	73.33%	71.01%	70.62%	67.86%	70.62%	84.94%	77.27%	78.55%
ほぼ適切	14.87%	22.49%	23.73%	25.00%	23.73%	13.25%	16.23%	12.46%
どちらともいえない	10.26%	5.33%	3.95%	5.00%	3.95%	1.81%	5.52%	5.88%
やや不適切	0.00%	0.00%	0.56%	2.14%	0.56%	0.00%	0.97%	2.08%
不適切	1.54%	1.18%	1.13%	0.00%	1.13%	0.00%	0.00%	1.04%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	195	169	177	140	177	166	308	289

成績評価の方法が「適切」または「ほぼ適切」と回答した学生の割合は9割程度であり、従来と同様に高い水準にある。成績評価はGPAによる評価の基礎となっているため、学生からの納得感は重要である。ほとんどの学生は適切に成績評価が行われていると感じており、今後もこれを維持する必要がある。

設問12：この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか。

選択項目	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期	2019 前期	2019 後期
役に立った	60.51%	63.91%	58.19%	50.71%	58.19%	71.69%	69.48%	73.70%
まあまあ役に立った	22.05%	24.26%	28.81%	32.86%	28.81%	19.28%	21.10%	16.26%
どちらともいえない	14.87%	10.06%	11.30%	12.86%	11.30%	9.04%	8.44%	7.61%
あまり役に立たなかった	0.51%	0.00%	0.00%	2.14%	0.00%	0.00%	0.97%	2.08%
役に立たなかった	2.05%	1.78%	1.69%	1.43%	1.69%	0.00%	0.00%	0.35%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	195	169	177	140	177	166	308	289

シラバスが「役に立った」または「まあまあ役に立った」と回答した学生の割合は9割程度であり、従来と同じように高い水準を維持している。今後もこの水準を維持する必要がある。

設問 13：総合的に見て、この講義における教員のパフォーマンスをどう評価しますか。

選択項目	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期	2019 前期	2019 後期
評価できる	71.28%	77.51%	73.18%	72.14%	73.18%	80.72%	75.00%	78.89%
まあまあ評価できる	19.49%	18.34%	21.23%	22.14%	21.23%	14.46%	17.86%	15.92%
どちらともいえない	7.69%	2.37%	5.03%	3.57%	5.03%	4.82%	5.52%	2.42%
あまり評価できない	0.51%	0.00%	0.00%	1.43%	0.00%	0.00%	0.97%	1.73%
評価できない	1.03%	1.78%	0.56%	0.71%	0.56%	0.00%	0.65%	1.04%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	195	169	179	140	179	166	308	289

教員のパフォーマンスを「評価できる」または「まあまあ評価できる」とした学生の割合は9割を超えており、従来と同様に高い水準を維持している。総合的に教員に対する学生からの満足度は高いと考えられるため、今後もこの水準を維持する必要がある。

設問 14：この講義は公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか。

選択項目	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期	2019 前期	2019 後期
役立つ	53.09%	55.15%	57.80%	50.74%	57.80%	61.59%	55.05%	59.23%
まあまあ役に立つ	21.13%	20.61%	26.01%	25.74%	26.01%	12.80%	18.57%	13.94%
どちらともいえない	16.49%	12.73%	8.67%	14.71%	8.67%	12.20%	15.96%	15.68%
あまり役に立たない	2.58%	3.03%	4.05%	5.88%	4.05%	9.15%	4.56%	4.88%
役に立たない	6.70%	8.48%	3.47%	2.94%	3.47%	4.27%	5.86%	6.27%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	194	165	173	136	173	164	307	287

公認会計士試験の受験に「役立つ」または「まあまあ役立つ」と回答した学生の割合は、これまでと同様で7～8割の水準にあった。会計大学院は必ずしも公認会計士試験に「直結」する科目ばかりが設定されている訳ではないが、この程度の水準は維持する必要があると考える。

設問 15：この講義は将来のキャリアにおいて役立つと思いますか。

選択項目	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期	2019 前期	2019 後期
役立つ	56.54%	72.19%	67.60%	66.19%	67.60%	78.92%	66.45%	71.97%
まあまあ役に立つ	29.32%	20.71%	25.14%	27.34%	25.14%	17.47%	20.20%	16.26%
どちらともいえない	8.90%	4.73%	4.47%	5.76%	4.47%	3.01%	10.10%	8.65%
あまり役に立たない	4.71%	1.18%	2.23%	0.00%	2.23%	0.60%	0.98%	1.04%
役に立たない	0.52%	1.18%	0.56%	0.72%	0.56%	0.00%	2.28%	2.08%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	191	169	179	139	179	166	307	289

将来のキャリアに「役立つ」または「まあまあ役立つ」と回答した学生の割合は9割程度であり、従来と同じように高い水準を維持している。今後もこの水準を維持する必要がある。

最後に、設問 16「あなたがすでに合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい」につき、2019 年度後期の集計結果について述べる。ここでは、資格試験を3段階（①日商簿記1級レベル以上、②2級レベル、③それ以下）に分けて、どの段階の知識を有している状況にあるのかについて質問した。入試段階で一定の簿記の素養を確認しているため、学生は概ね日商簿記2級レベル以上の実力は有していると考えられる。ただし、本質問では、資格の有無を問うているので、必ずしも実力と連動するわけではないことに留意が必要である。

2019 年度後期では、①24%、②52%、③24%程度であった。2019 年度後期については、およそ半数の学生は2級レベルの知識を有しており、1級レベル以上の知識を有している学生は2割程度にとどまる。また、3級以下の学生も2割程度いることから、必ずしも計算能力の高くない学生が存在することに留意して授業設計を行う必要があるといえる。

4.5. 自由記入欄の意見について

「会計大学院の授業に関するアンケート」に設けられた自由記入欄については、科目担当教員による対応が必要であるので、寄せられた意見はこれまで通り担当教員へ報告し、改善すべき点は改善を行うよう依頼している。

5. 結び

2019年度後期における「会計大学院の修了予定者に対するアンケート」と「会計大学院の授業に関するアンケート」の集計結果等をふまえると、本会計大学院の授業は総合して良好な評価を得ていると考えられる。本会計大学院が抱える課題については、学生の学習時間の確保である。予習・復習・宿題にかかる1日あたりの時間は、多くの学生で2時間以下となっている。個々の授業の設計は各教員の裁量に委ねるところであるが、学生の学習時間がきちんと確保されるように継続して工夫することが必要であると考えられる。最後に、アンケートに真摯に取り組んでいただいた学生各位に感謝を申し上げます。

修了予定者に対するアンケート（2019年度）

このアンケートは、会計大学院のカリキュラムや施設等に改善に役立てることを目的として、本 Semester で修了予定の学生を対象として実施いたします。是非とも会計大学院の発展と後輩のためにご協力くださればと思います。本アンケートは無記名で実施いたします。個人が特定できるようなおそれがある場合にはその項目について回答しなくてもかまいません。マークシート等は担任にご提出ください（面談期間のみ、事務分室前に臨時の回収ポストを設定しますので、そちらへの提出でもかまいません）。

マークシート回答項目

回答者属性

番号	質問	回答	
1	あなたのコースについて、該当するものを選んで下さい。	(1) 公認会計士コース	(2) 会計リサーチコース
2	入学前の状況	(1) 学部（日本の大学） (2) 学部（海外の大学）	(3) 社会人（企業等に勤務） (4) その他

カリキュラムについて（これまでに受講してきた全体的な感想をお願いします）

番号	質問	回答	
3	これまでに受講してきた授業をふまえ、授業内容は会計大学院として適切な水準にあると思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない	(2) やや不適切である (1) 不適切である
4	Semesterごとの開設授業科目数のバランスは適切だと思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない	(2) やや不適切である (1) 不適切である
5	成績評価に用いている GPA は、学生個々の能力を適切に評価できる（た）と思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない	(2) やや不適切である (1) 不適切である
6	時間割上の配置について適切だと思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない	(2) やや不適切である (1) 不適切である

施設等について

番号	質問	回答	
7	講義室について満足度をお聞かせください	(5) 満足である (4) ほぼ満足である (3) どちらともいえない	(2) やや不満足である (1) 不満足である
8	院生研究室について満足度をお聞かせください	(5) 満足である (4) ほぼ満足である (3) どちらともいえない	(2) やや不満足である (1) 不満足である

全体として

番号	質問	回答	
9	会計大学院のトータルの満足度について	(5) 満足である (4) ほぼ満足である (3) どちらともいえない	(2) やや不満足である (1) 不満足である

自由記述用紙 回答項目

授業、施設、その他の事項について、別紙（自由回答用紙、無記名）にご自由にご意見を記述ください（個人を中傷する内容はお控えください）。また、ワード等で文書を作成の上、提出頂いてもかまいません（A4用紙・様式自由）。その場合、1行目に「自由記述」と記載してください。

アンケートは以上です。ご協力感謝します

資料 2：2019 年度後期「会計大学院の授業に関するアンケート」設問用紙

会計大学院の授業に関するアンケート（2019 年度後期）

このアンケートは会計大学院の授業改善に学生諸君の意見を反映するためのものであり、集計結果等は報告書として公表致します。

授業科目名はマークシート用紙に記入されていますので御確認下さい。

回答者属性

番号	質問	回答
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(5) 公認会計士コース（2 年） (2) 経済経営学専攻 (4) 公認会計士コース（1 年） (1) 経済学部 (3) 会計リサーチコース (0) その他

科目内容について

番号	質問	回答	備考
2	この講義にどのくらい出席しましたか？	(5) 90% 以上 (4) 89-70% (3) 69-50% (2) 49-20% (1) 20% 未満	おおよその出席率で回答して下さい。
3	この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5 時間以上 (4) 4-5 時間 (3) 3-4 時間 (2) 2-3 時間 (1) 1-2 時間 (0) 1 時間未満	セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。
4	この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5 時間以上 (4) 4-5 時間 (3) 3-4 時間 (2) 2-3 時間 (1) 1-2 時間 (0) 1 時間未満	宿題に掛けた時間を含めずに回答して下さい。
5	この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5 時間以上 (4) 4-5 時間 (3) 3-4 時間 (2) 2-3 時間 (1) 1-2 時間 (0) 1 時間未満	セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。
6	この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか？	(5) 理解できた (4) ほぼ理解できた (3) どちらともいえない (2) あまり理解できなかった (1) 理解できなかった	
7	この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	この講義が基礎、展開、実践・応用科目（注）の何れに属しているか（マークシートに記載）を考慮して回答して下さい。

（注）実践・応用科目は基礎、展開科目で学んだ内容が、実際にどのように応用されていくのかを学習する。

番号	質問	回答	備考
8	教員のこの講義に対する準備は十分でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった	
9	教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった	板書・プロジェクター等の利用も考慮して回答して下さい。
10	テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	
11	この講義の成績評価の方法は適切であると思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	シラバスに記載されている成績評価を考慮して回答して下さい。
12	この授業のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか？	(5) 役に立った (4) まあまあ役に立った (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たなかった (1) 役に立たなかった	授業を選択する際に役立ったかという点も考慮して回答して下さい。
13	総合的に見て、この講義における教員のパフォーマンスをどう評価しますか？	(5) 評価できる (4) まあまあ評価できる (3) どちらともいえない (2) あまり評価できない (1) 評価できない	
14	この講義は、公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない	
15	この講義は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない	
16	あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	(5) 税理士会計科目 or 公認会計士 短答式・論文式 or 日商簿記1級 (3) 日商簿記2級 (1) 上記について無し	(5) と (3) の両者に該当する方は、(5) のみ回答してください。
17	《講義担当教員による質問》	(5), (4), (3), (2), (1)	担当教員による質問があれば回答して下さい。
18	《自由記入欄》	授業の感想、担当教員への要望、また本アンケートの各質問に関連した更なる意見等を、マークシート添付の用紙に自由に記入して下さい。	

アンケートは以上です。御協力感謝致します。

資料3：2019年度後期「会計大学院の修了予定者に対するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合
設問1 回答者属性	公認会計士コース	9	75.00%
	会計リサーチコース	3	25.00%
	合計	12	100.00%
設問2 入学前の状況	学部（日本の大学）	8	66.67%
	学部（海外の大学）	1	8.33%
	社会人（企業等に勤務）	3	25.00%
	その他	0	0.00%
	合計	12	100.00%
設問3 これまでに受講してきた授業をふまえ、授業内容は会計大学院として適切な水準にあると思いますか？	適切である	9	75.00%
	ほぼ適切である	2	16.67%
	どちらともいえない	1	8.33%
	やや不適切である	0	0.00%
	不適切である	0	0.00%
	合計	12	100.00%
設問4 Semesterごとの開講授業科目数のバランスは適切だと思いますか？	適切である	11	91.67%
	ほぼ適切である	1	8.33%
	どちらともいえない	0	0.00%
	やや不適切である	0	0.00%
	不適切である	0	0.00%
	合計	12	100.00%
設問5 成績評価に用いているGPAは、学生個々の能力を適切に評価できる（た）と思いますか？	適切である	10	83.33%
	ほぼ適切である	2	16.67%
	どちらともいえない	0	0.00%
	やや不適切である	0	0.00%
	不適切である	0	0.00%
	合計	12	100.00%
設問6 時間割上の配置について適切だと思いますか？	適切である	9	75.00%
	ほぼ適切である	3	25.00%
	どちらともいえない	0	0.00%
	やや不適切である	0	0.00%
	不適切である	0	0.00%
	合計	12	100.00%
設問7 講義室について満足度をお聞かせください。	満足である	11	91.67%
	ほぼ満足である	1	8.33%
	どちらともいえない	0	0.00%
	やや不満足である	0	0.00%
	不満足である	0	0.00%
	合計	12	100.00%
設問8 院生研究室について満足度をお聞かせください	満足である	7	58.33%
	ほぼ満足である	4	33.33%
	どちらともいえない	0	0.00%
	やや不満足である	1	8.33%
	不満足である	0	0.00%
	合計	12	100.00%
設問9 会計大学院のトータルの満足度について	満足である	10	83.33%
	ほぼ満足である	2	16.67%
	どちらともいえない	0	0.00%
	やや不満足である	0	0.00%
	不満足である	0	0.00%
	合計	12	100.00%

注) 設問の文言は本来のものと若干異なります。

資料4：2019年度後期「会計大学院の授業に関するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合
設問1 あなたの専攻・コース(学年)について、該当するものを選んで下さい。	公認会計士コース(2年)	67	23.18%
	公認会計士コース(1年)	173	59.86%
	会計リサーチコース	26	9.00%
	経済経営学専攻	15	5.19%
	経済学部	3	1.04%
	その他	5	1.73%
	合計	289	100.00%
設問2 この講義にどのくらい出席しましたか。	90%以上	240	84.51%
	89-70%	27	9.51%
	69-50%	10	3.52%
	49-20%	4	1.41%
	20%未満	3	1.06%
	合計	284	100.00%
設問3 この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか。	5時間以上	13	4.55%
	4-5時間	9	3.15%
	3-4時間	30	10.49%
	2-3時間	42	14.69%
	1-2時間	96	33.57%
	1時間未満	96	33.57%
	合計	286	100.00%
設問4 この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか。	5時間以上	9	3.15%
	4-5時間	15	5.24%
	3-4時間	22	7.69%
	2-3時間	62	21.68%
	1-2時間	93	32.52%
	1時間未満	85	29.72%
	合計	286	100.00%
設問5 この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか。	5時間以上	23	8.13%
	4-5時間	12	4.24%
	3-4時間	27	9.54%
	2-3時間	49	17.31%
	1-2時間	81	28.62%
	1時間未満	91	32.16%
	合計	283	100.00%
設問6 この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか。	理解できた	144	50.35%
	ほぼ理解できた	103	36.01%
	どちらともいえない	30	10.49%
	あまり理解できなかった	8	2.80%
	理解できなかった	1	0.35%
	合計	286	100.00%
設問7 この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか。	適切	213	73.70%
	ほぼ適切	57	19.72%
	どちらともいえない	15	5.19%
	やや不適切	3	1.04%
	不適切	1	0.35%
	合計	289	100.00%
設問8 教員のこの講義に対する準備は十分でしたか。	十分	238	82.35%
	ほぼ十分	36	12.46%
	どちらともいえない	12	4.15%
	やや不十分	1	0.35%
	不十分	2	0.69%
	合計	289	100.00%

	選択項目	人数	割合
設問9 教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか。	十分	238	82.35%
	ほぼ十分	32	11.07%
	どちらともいえない	15	5.19%
	やや不十分	2	0.69%
	不十分	2	0.69%
	合計	289	100.00%
設問10 テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。	適切	226	78.20%
	ほぼ適切	34	11.76%
	どちらともいえない	23	7.96%
	やや不適切	3	1.04%
	不適切	3	1.04%
	合計	289	100.00%
設問11 この講義の成績評価の方法は適切であると思いますか。	適切	227	78.55%
	ほぼ適切	36	12.46%
	どちらともいえない	17	5.88%
	やや不適切	6	2.08%
	不適切	3	1.04%
	合計	289	100.00%
設問12 この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか。	役に立った	213	73.70%
	まあまあ役に立った	47	16.26%
	どちらともいえない	22	7.61%
	あまり役に立たなかった	6	2.08%
	役に立たなかった	1	0.35%
	合計	289	100.00%
設問13 総合的に見て、この講義における教員のパフォーマンスをどう評価しますか。	評価できる	228	78.89%
	まあまあ評価できる	46	15.92%
	どちらともいえない	7	2.42%
	あまり評価できない	5	1.73%
	評価できない	3	1.04%
	合計	289	100.00%
設問14 この講義は公認会計士試験を受験する上で役に立つと思いますか。	役立つ	170	59.23%
	まあまあ役に立つ	40	13.94%
	どちらともいえない	45	15.68%
	あまり役に立たない	14	4.88%
	役に立たない	18	6.27%
	合計	287	100.00%
設問15 この講義は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか。	役立つ	208	71.97%
	まあまあ役に立つ	47	16.26%
	どちらともいえない	25	8.65%
	あまり役に立たない	3	1.04%
	役に立たない	6	2.08%
	合計	289	100.00%
設問16 あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	日商簿記1級レベル以上	68	24.20%
	日商簿記2級	146	51.96%
	上記について無し	67	23.84%
	合計	281	100.00%

注) 設問の文言は本来のものと若干異なります。

2019 年度 東北大学会計大学院ワークショップ委員会

委員長	吉永 裕登
委員	木村 史彦
委員	青木 雅明
委員	松田 康弘
委員	亀岡 恵理子

会計大学院アンケート実施報告書 2019 年度後期

2020 年 6 月発行

編集・発行：東北大学会計大学院ワークショップ委員会